

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「情報の取り扱い」「読むこと」、算数では「測定」の分野の平均正答率が低い。
○漢字や計算などの基礎的・基本的な内容について概ね理解している児童が多いが、どの学年でも学力の2極化傾向が見られる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○児童が自力解決をする時間が十分に確保できておらず、学習の定着度に差ができてしまっている。
○対話を通して互いの考えを知ることができているが、深い学びにつなげる指導を工夫する必要がある。
○振り返りが習慣化しているが、形式化してしまい、質の向上を図る必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「板橋区授業スタンダードS・B」に基づいた、子どもたちが主体の探究的な学びを実践する。
○高学年での教科担任制、専科教員の副担任制、交換授業等を取り入れ、中学校の教科担任制との接続を円滑にする。
○デジタルドリルや東京ベーシック・ドリルを活用し、「朝学習の時間」での「学力向上推進週間（2回）」や放課後補習教室（不定期）、夏季学習教室（4回）を設定することで基礎・基本の学力の向上を図る。
○児童が知識・技能を習得し、習得した知識を活用して考える力、表現し伝える力を育むために、問題解決型・探究型の学習活動を重視し、児童が主体的に学習に取り組めるよう授業改善を進める。
○自分の思いや考えを書く活動を意図的に設定する。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び
板橋区授業スタンダードSの取組

○各教科等の授業において、「学習課題：めあての設定→自力解決→集団解決（ペア・グループでのOUTPUT）→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。
○1年間の中でいくつかの単元を選択し、板橋区授業スタンダードSに沿った自己調整型の学習を取り入れる。

視点2

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

○一人一台端末を活用し、児童一人ひとりの考えを共有し、多様な考え方に気付くことができるようにする。

視点3

総合的な学習の時間との連携

○生活科・総合的な学習の時間を基軸に、子どもたちが主体の探究的な学びを推進する。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進

○スタートカリキュラムの確実な実施と、その見直しを通して保幼小の接続をスムーズにできるようにする。
○9年間を見通した単元配列表に基づき、教科横断的な学習や教科の系統性を意識した授業づくりを推進する。
○高学年教科担任制の取組として、学年担任制を活かした学年内での交換授業等を取り入れ、中学校の教科担任制との接続を円滑にする。

豊かな心と健やかな体の育成

○道徳教育では、各教科・領域等と関連付けた学習活動を充実させ、行動に向かう道徳的実践力を育てる。
○特別活動では、「子どもを真ん中に据えた教育」の要素を踏まえ、異学年での交流活動を活性化させる。
○さまざまな体育的行事、食育、健康教育の取組を、年間を通して行い、健やかな体の育成を図る。

多様な教育的ニーズへの対応

○ユニバーサル・デザインの視点に立った教室環境、授業づくりの見直しを図る。
○特別支援校内委員会をさらに充実させ、特別な支援が必要な児童への配慮のレベルを明確にし、組織的に対応する。